

平成30年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成31年 4月 3日
研究・研修課題名	第76回細胞検査士セミナー
研究・研修組織名(所属)	病理部
研究・研修責任者名(所属)	荒木 剛(病理部)
共同研究・研修実施者名(所属)	長崎 雅幸(病理部)

区分	<input type="checkbox"/> 学会発表、 <input type="checkbox"/> 論文掲載、 <input type="checkbox"/> 資格取得、 <input type="checkbox"/> 認定更新、 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得、 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	荒木 剛, 長崎 雅幸
学会名(会期・場所、認定名等)	第76回細胞検査士セミナー(2018.9.8-9, 福岡, 細胞検査士)
演題名・認証交付先等	日本臨床細胞学会
取得日・認定期間等	4年毎更新

目的及び方法、成果の内容

① 目的

- ・細胞検査士資格更新のために必要なクレジットを得る。
- ・細胞診断における知識の向上を目指す。
- ・他施設の細胞検査士との交流を通じて、情報交換に努める。

② 方法

2018年9月8日(土)

- ・教育講演1(13:00~14:00)

「中皮腫診断の細胞診」

PCL福岡 病理・細胞診センター所長兼細胞診断部部长 亀井 敏昭先生
 座長：加藤 拓(成田富里徳州会病院 病理診断科)

- ・教育講演2(14:00~15:00)

「リンパ節の細胞診」

福岡大学医学部病理学教授 竹下 盛重先生

- ・セルフアセスメントスライド(15:10~17:10)

細胞検査士会学術委員会・精度保障委員会担当
 司会：竹中 明美(大阪国際がんセンター 臨床検査科病理細胞診)
 問題・解説：渋谷 康雄(国立がん研究センター)
 横山 俊朗(久留米大学医療センター 臨床検査科)

2018年9月9日(日)

- ・教育講演3(9:00~10:00)

「新取扱い規約からみた子宮頸部細胞診の見方・考え方」

熊本大学医学部附属病院 病理部部长 三上 芳喜先生
 座長：山口 知彦(久留米大学病院 病理部)

- ・教育講演4(10:00~11:00)

「乳腺細胞診の診かた・考え方」

がん研有明病院 乳腺センター長 大野 真司先生

座長：古田 則行（がん研有明病院 細胞診断部）

・教育講演5(11:10~12:10)

「口腔細胞診の診かた・考え方」

九州歯科大学口腔病態病理学 准教授 矢田 直美先生

座長：川嶋 大輔（飯塚病院 中央検査部）

・日本臨床細胞学会技師賞受賞記念講演(13:10~14:10)

「細胞診検査と遺伝子検査の融合を目指して」 土浦協同病院 検査部副部長 池田 聡先生

座長：三宅 真司（日本臨床細胞学会細胞検査士会副会長）

・特別講演(14:20~15:00)

「卵巣腫瘍の細胞診」

国際医療福祉大学教授 福岡山王病院 加来 恒壽先生

座長：伊藤 仁（日本臨床細胞学会細胞検査士会会長）

・ワークショップ(15:00~16:00)

「LBC法の新たなる展開」

「婦人科」 熊本赤十字病院 病理診断科 境 一先生

「泌尿器」 国家公務員共済組合連合会佐世保共済病院病理診断科 川崎 辰彦先生

「膵胆管系」 福岡赤十字病院 病理診断科 碓 益代先生

座長：小松 京子（日本臨床細胞学会細胞検査士会副会長）

③ 成 果

教育講演では中皮腫、リンパ節、子宮頸部細胞診、乳腺細胞診、口腔細胞について基本的な内容からいろいろな症例について説明を受けた。

中皮腫においては近年、アスベスト問題から年月が経ち中皮腫患者が増加傾向にある点より、診断能力向上に役立つ内容の講演であった。免疫染色などを有効に使い診断していかななくてはならないと理解した。

子宮頸部細胞診においては、子宮頸部の取り扱い規約の変更点を盛り込んだ講演で会ったため新規約に沿った見方考え方を理解する上で勉強になった。

セルフアセスメントスライドは、テスト形式で行われ、基礎的な問題から希少例に関する出題が有り、解説もあったため見方や考え方について理解できた。

技師賞受賞講演では、日々の研究や探究心の必要性を学んだ。

ワークショップでは、主に子宮頸部において用いている LBC 法を泌尿器、膵胆管系でも用いられる実例の説明が行われ、今後、診断向上のためには、取り入れ行う試みが必要になってくるように思われた。

細胞診断の精度向上にとっても役立つ講演会であった。